

bandpark - 番所鼻自然公園リ・デザイン -

鹿児島県南九州市／令和7年リニューアルオープン

bandpark（番所鼻自然公園）は、地元のまちづくり NPO が主体となり平成 22（2010）年頃より自然公園内に放置された民間廃墟建物の解体を行政に働きかけるとともに、パークマネジメントの社会実験等を経て公園全体のリ・デザインを行い「bandpark」としてリニューアルオープンしました。NPO が母体の一般社団法人が、市と管理運営委託、パークマネジメント協定を締結することで、初期費用を必要とせず収益事業実施を含む柔軟な公園運営を可能とし、過疎地ながら地元主体で公園運営する体制を構築しました。

廃墟跡地には新たに公園案内所兼カフェと広場、保安林内にはボードデッキとツリーキャンプが整備されました。カフェ、ツリーキャンプ、イベント等の収益授業の売上の 5 % を市に還元して、その資金が公園の維持管理に充当される仕組みを導入し、公園の質向上と管理費低減を実現し、来訪者が間接的に景観保全に寄与することにつながっています。

事業概要

所在地	鹿児島県南九州市穎娃町
土地面積	約 17,000 m ²
事業主体	南九州市、鹿児島県、一般社団法人アソビシロ、NPO 法人穎娃おこそ会
管理運営主体	一般社団法人アソビシロ
主要施設	公園案内所兼カフェ、広場、ボードデッキ、ツリーキャンプ、エントランス、駐車場
事業スキーム	パークマネジメント基本協定（市と地元民間企業との独自協定）、管理運営委託、デジタル田園都市国家構想交付金事業、鹿児島県魅力ある観光地づくり事業、内閣府地方創生推進交付金事業

取組のポイント

- NPO が母体の一般社団法人が市と管理運営委託、パークマネジメント協定を締結することで収益事業実施を含む柔軟な公園運営を可能とし、過疎地ながら地元主体で公園運営する体制を構築しました。
- 保安林内に通したボードデッキ、キャンプ場、新設した公園案内所兼カフェ等を起点に、景観資源を活かしたアクティビティを展開し、地域の自然公園に対する関心、地域外での知名度が高まり、来園者数は平成 21（2009）年の約 1.5 万人から、令和 6（2024）年には 20 万人と大幅に増加しました。既存の民間旅館の集客も増え、雇用増等の影響ももたらしています。
- 本事業をきっかけに、過疎地でも民間（地元）の力を活かした公園運営の可能性が示され、市内にある公園の維持管理、運営体制の見直しにつながっています。
- bandpark の整備を契機に、指宿、枕崎、知覧エリアとの広域的な観光連携「薩南トリップライン」の構築を目指しています。

